

第11回「学びの変革」委員会

出席者

校長(委員長)	○	教頭	出張	総括事務長	○	主幹教諭	○
指導教諭	○	教務主任(総括責任者)	○	進路指導主事(中核教員)	○	実践推進リーダー	○
総務部長	○	1学年主任	○	2学年主任	○	3学年主任	○

1 校長から

年度後半、課題発見・解決型の授業がどれだけ進んでいるかを主体的な学び、協働的な学び、対話的な学び、深い学びの4つの観点で自己診断できる「尾北イノベーションに係る授業改善自己評価表」を作成した。現状はまだ、十分な状態であるとはいえない。現在の状態がどうである自己診断して、課題発見・解決型の授業を進めてほしい。また、ICTの活用が全体のものとなるようにしてほしい

2 カリキュラム実践

実践推進リーダーから

1年の総合的な学習の時間について今後の流れについての説明。地域課題探究のまとめとしてポスターセッションを実施する。その後、グローバル課題について取り組み課題発見を行う。カンボジアでの海外協力に参加された方を講師に講演会を行う予定。

3 中核教員研修の報告

- ・課題発見・解決型の学習においてとくに授業での「課題発見」が重要
- ・問題からイメージ軸（自分との比較）、空間軸（他の地域のとの比較）、時間軸（過去、将来との比較）を通して、新たな課題を発見することが必要。
- ・年度後半に向けて、授業研究・授業計画を進め、カリキュラム開発を行っていく。

(校長)

- ・「課題発見→課題解決→表現」の各項目に必要な力を明確にしていくこと。
- ・各教科で、課題発見、課題解決の形を作っていくこと。
- ・生徒のメタ認知を促し、この授業でどんな力を身に付けたいのか、授業後、何が身に付き、何が不足しているのか、自分にとっての課題は何かを考えさせることが大切。

4 教育研究部から（5分）

2年「課題研究セミナー」指導の方向性

3年「総合的な学習の時間」振り返り生徒アンケート 分析結果

・・・次回の会議で取り扱う